

## 平成20年度第1回通常総会

# 組織改革への準備進む

平成20年度第1回通常総会が5月17日午後2時から東京・四谷の主婦会館プラザエフで開かれた。会員154人が出席し、①平成19年度事業報告、②平成19年度収支決算・財産目録の承認、③創立100周年記念事業特別会計決算及び剰余金処分、④平成20年度除籍予定者——について審議した結果、いずれも原案どおり可決承認した。(事業報告等の詳細内容は別掲)

### ■定足数について

### ■新法だと出席者足りず流会

この日の総会には2361の委任状が提出された。総会通知を

送した時点での在籍者は5434人。出席者・委任状提出者を合わせると、会員の3分の1を上回って総会は無効に成立したが、宮下会長は「新しい法律では、総会は会員の過半数でもって成立し、議案の承認には、その過半数が必要。これにしたがえば、今日の総会は流会となる」と注意を喚起した。

### ■事業報告・収支決算

### ■減価償却をはじめて実施

議案審議を開始した。宮崎絃一

総務担当理事が事業報告を、吉永英明財務担当理事が収支決算・財産目録等を説明した。

### 【事業報告】●公益事業Ⅱ登山・講演会・シンポジウムなどを開催

た。4月には宮崎支部が子ども登山教室を、6月には信濃支部がウエストン祭を、7月には山梨支部が山の博覧会、越後支部が高頭祭を実施した。医療委員会が8月にシンポジウム「高所登山における突然死を考える」を、10月には資料映像委員会が全国山岳博物館等連絡会議を開いた。11月から2月にかけて、指導、青年部委員会による講習会が相次ぎ、「雪山救助現場の実際」、緊急救命法講習会、ロープワーク講習会、雪崩・雪上技術講習会などが行なわれた。

自然保護・山岳環境保全としては、関西支部の四国中央分水嶺踏査が最終年を迎えた。北海道支部が高山植物盗難防止パトロールを

実施、熊本支部が森林保全巡視員講習会を開催した。9月には静岡と山梨支部が、それぞれ富士山で清掃活動を展開。自然保護全国集会は11月に西湖で行なわれた。森づくりは、全国に広がり自然保護委員会が高尾、青森支部が白神、東海支部が猿投、岐阜支部が小津権現山、山陰支部が大山で行なった。宮崎支部は水源の森づくりを実施。

●一般事業・会員のための事業Ⅱ  
集会委員会が若葉山行、北信三山放射状登山、紅葉山行、豪州コジウスコ山登山などを実施。全国支部懇談会は10月6～7日、岩手で、年次晩餐会は12月1日に高輪プリンスホテルで実施した。海外登山隊は、石川支部がインド・ヒマラヤのマーン峰、関西支部はクビツァンポ源流域学術調査、東海支部

がインド・ヒマラヤのシャルミリ峰、広島支部が霸王山、福岡支部が東チベットのゲム・ソング峰に派遣した。

### 当期収支は黒字維持

【収支決算等】大きな特色は減価償却を実施したことだ。対象はルーム、山研など。今後、一般法人になるにせよ、公益法人になるにせよ、企業会計と同じように減価償却を実施して収支を明確にするように指導されているためだ。

19年度決算は、収入合計が8647万円だった。うち会費・入金は6286万円で収入全体の72・7割を占めた。入会金収入は104人分。通常会員の会費納入率は97・5割の高率を維持している。その他事業収入はグッズの販売など。補助金100万円は電源開発からのマッキンリー基金への助成金で、あと2年間続く。退職金支払いのため退職給与引当金取り崩しを雑収入に計上している。

支出は7523万円。事業費が4696万円、管理費は2891万円。管理費を削減、事業費が多くなるよう心がけている。事業費のうち、海外登山補助金は一部返却があり予算を下回った。その他

事業費は支部補助金、グッズ用品の仕入れなど。管理費では、旅費交通費を会長は5割、副会長は3割などを自己負担するなどで大きく減らした。福利厚生費は年金の負担増。その他管理費でコピーリース料などを削減。特定預金支出では、秩父宮記念賞基金を19年度は積み立てしなかった。当期収入から支出を差し引いた当期収支差額は199万円となった。

### 正味財産3億4633万円に

正味財産増減計算書が大きく変わった。これまでは増加だけだったが、19年度は減少が加わった。減価償却を実施したためだ。減少額は退職給与引当預金の取り崩しなどを含め約8500万円。この結果、正味財産額は4億2775万円から3億4633万円に減少した。貸借対照表では、その他固定資産の建物、什器備品、発電装置が減価償却のため正味財産増減計算書に記載している分減価している。

### 減価償却実施額

#### 過年度分含め7984万円

減価償却の実施額は、計算書類に対する注記で詳細に記載している。昭和53年に取得した市ヶ谷の

事務室・集會室・図書室は、耐用年数を50年とし、残価率10割の定額法で実施、過年度分として1391万円、19年度分は47万円を償却。平成11年取得の104号室は耐用年数23年、残価率10割の定額法で過年度分116万円、19年度分77万円を償却した。

平成5年建設の上高地山岳研究所は耐用年数を鉄筋コンクリート部分は50年、木造部分は22年とし、残価率10割の定額法で過年度分5339万円、19年度分381万円を償却した。平成11年に設置した水力発電所は耐用年数20年、残価率10割の定額法で過年度分として127万円、19年度分は17万円を償却。

什器備品は、いずれも耐用年数を過ぎていたので残価率10割の額とし、取得後20年以上経過した木製書架、16リ映写機ほか5点(取得価格364万円)は除却。

これらの結果、建物、ミニ水力発電装置、什器備品は1億7327万円の取得価格に対し減価償却累計額は7984万円となり、当期末残高は9342万円となった。

### 共有持分地価

1平方メートルあたり86万円



154人が出席、ほぼ満席となった総会会場

財産目録に記載した固定資産の土地7495万円は、事務所・図書室・104号室の宅地持分に対するもの。共有持分として合計87・26平方メートルあり、1平方メートルあたり85・9万円となる。「相続税路線価129万円、固定資産税評価額68万円と比べ、共有部分であることを考慮すると、やや高めか」と報告した。

### 監査報告

これらに対し深川安明監事から収支計算書等が正確かつ妥当であり、また理事の業務執行が誠実に行なわれたことを認める監査報告があった。深川監事は、口頭で①金融口座が多いので整理統合する、②終身会員の会費取り崩しについて規定整備を図る、③会長らが旅費の一部を自己負担したことが、



総会であいさつする宮下秀樹会長

さらに経費削減につながっていくことを期待したい——と要請した。

■20年度除籍予定者

平成20年度の除籍対象者は101人。会費を18・19年度の2年間滞納している会員が対象となる。

20年度も納入しないと除籍となる。実際の除籍者は例年40〜50人。昨年は対象者91人で実際に除籍となったのは41人だった。1年間分でもいいから会費を納めて留まってほしいという要請があった。

■100周年記念事業

■余剰金37万円を一般会計に

100周年記念事業特別会計の決算報告があった。事業費総額1億599万円。募金、寄付金、企画・

協賛収入は7184万円。支出は、登山隊補助1010万円、プロック別式典補助200万円、記念式典1710万円、森づくり補助327万円など。剰余金37万円を一般会計に繰り入れることにした。

■新支部長紹介

北海道、石川、富山、福島

新しい支部長が紹介された。北海道は滝本幸夫氏(5993)、石川は中川博人氏(7463)、富山は山田信明氏(9899)、福島は大谷司氏(9269)。滝本北海道支部長は「昨年11月、4人の岳友を亡くした。今年は鎮魂の年だ。一周忌を終えて活動を再開したい」と語った。

総会終了後、懇親会を開いた。神崎忠男副会長が音頭をとって乾杯し和やかな歓談を続けた。

■質疑・応答

■会員は矜持をもって行動を

柴田篤志会員(4932) 総会を年2回開催するようになったが、間隔が短い。上期と下期に分け11月と5月に開くようにすればどうか。また退会者が多い。復活の際の入会金を減免してはどうか。

宮下会長 文部科学省から3月までに予算を、5月までに決算を

持ってこいと指導されているので、現在のように開催しなければならぬ。復活入会金は考えてみたい。

■伏見紀子会員(5390) 国際

交流をきちんと行なっていますか。担当者はいるのでしょうか。

■宮下会長 きちんとやっている

と思っっている。外国からの招聘などに對し、その都度対応している。

■山口善弘会員(10699) 自

然保護委員会からのアンケートに回答した。結果は公表されるのか。

■山川陽一理事 約1900通の

回答を集計し、自然保護全国集会で速報した。会報「山」、機関紙「木の目草の芽」に掲載、対外向けに報告書も作成し、希望者には配布する。

■都甲宣好会員(12057) 会

員から海外登山勧誘のパンフレットが送られてきて扱いに困った。

■吉永常務理事 友だち同士で行

くというのとは違う。旅行業法に抵触しかねない。平山・前会長は「政治と商売を持ち込むな」とよく言っていた。会員は、矜持をも

■野田憲一郎会員(5805) 収

益事業は課税されないか。

■吉永常務理事 公益法人でも収

益事業をやっていることになって

いる。減価償却負担などで平成25

年まではマイナス収支となる見込

みなので課税されることはない。

消費税も売り上げ1000万円ま

益事業をやっていることになって... (文・高橋重之、写真・神長幹雄)